

# 都市環境学部 教員一覧 教員の専門分野・研究分野の紹介

## 地理環境コース →p.080

杉浦 芳夫 教授  
空間分析論、空間行動論、地理人文学  
鈴木 毅彦 教授  
火山灰層序、火山噴火史、中期更新世編年学  
高橋 日出男 教授  
都市気候学、気候変動、降水現象に関する気候学  
松本 淳 教授  
モンスーン気候学、環境気候学  
山崎 晴雄 教授  
第四紀地殻変動、地震地質学  
若林 芳樹 教授  
都市地理学、行動地理学、地理情報科学  
渡邊 真紀子 教授  
土壌学、環境動態解析、環境と生態  
白井 正明 准教授  
地積学、第四紀地質学、海洋地質学  
滝波 章弘 准教授  
文化地理学、観光研究、フランス語圏研究  
松山 洋 准教授  
水文気象学、陸面-大気相互作用、統計解析、プログラミング  
泉 岳樹 助教  
都市気候学、地理情報システム、数値気象モデル  
高橋 洋 助教  
アジアモンスーン、雲降水気候学、領域気候モデリング  
坪本 裕之 助教  
都市地理学、オフィス立地論  
中山 大地 助教  
数値地形学、地理情報システム、リモートセンシング  
原山 道子 助教  
計量書誌学、地理文献学

## 都市基盤環境コース →p.082

稲貝 とよの 教授  
水処理工学、環境解析学、資源リサイクルシステム  
宇治 公隆 教授  
コンクリート材料学、コンクリート構造学、耐久性、補修・補強  
梅山 元彦 教授  
海岸工学、港湾工学、海洋工学  
河村 明 教授  
水文学、水資源工学、河川工学  
小泉 明 教授  
水環境工学、上下水道工学、廃棄物計画のシステムズアナリシス  
長嶋 文雄 教授  
構造力学、橋梁などの耐震設計、衝撃問題、環境振動問題  
西村 和夫 教授  
都市及び山岳部の地下空間構造物と地盤の静的・動的相互作用  
野上 邦栄 教授  
構造工学、橋梁工学、鋼・合成構造学  
前田 研一 教授  
橋梁工学、構造工学、橋梁史、鋼構造学、複合構造学  
荒井 康裕 准教授  
環境工学（都市廃棄物計画、資源循環・リサイクル）  
上野 敦 准教授  
コンクリート工学、コンクリート材料科学、環境に貢献するコンクリート  
小田 義也 准教授  
物理探査、地震工学、地震観測、都市防災  
小根山 裕之 准教授  
交通計画、交通工学、交通環境負荷解析  
横山 勝英 准教授  
環境水理学、河川・貯水池の土砂動態、物質循環  
吉嶺 充俊 准教授  
土質力学、特に地盤の液状化  
天口 英雄 助教  
水工水理学、水文学  
大野 健太郎 助教  
コンクリート材料学、コンクリート構造物の維持管理  
鹿田 成則 助教  
交通工学、国土計画  
新谷 哲也 助教  
水工水理学  
土門 剛 助教  
トンネル力学、地下空間工学、地盤工学、岩盤力学  
中村 一史 助教  
構造工学、地震工学、維持管理工学  
山崎 公子 助教  
水環境工学（水源水質保全、上下水道、浄水汚泥）

## 建築都市コース →p.084

市川 憲良 教授  
建築環境システム、建築水環境、建築設備計画  
上野 淳 教授  
建築計画学、環境心理学、環境行動学  
北山 和宏 教授  
鉄筋コンクリート構造、耐震設計論  
橋高 義典 教授  
建築材料学、緑化材料、内装材料、高性能コンクリート  
小泉 雅生 教授  
建築設計、建築意匠  
小林 克弘 教授  
建築設計、建築意匠、西洋建築史  
須永 修通 教授  
建築環境学、環境共生住宅・建築、温熱快適性  
竹宮 健司 教授  
建築計画学、環境行動学  
玉川 英則 教授  
都市解析、都市計画  
角田 誠 教授  
建築生産、ストックマネジメント、リユースシステム  
深尾 精一 教授  
建築計画学、建築構法計画、構法設計  
星 旦二 教授  
健康科学、公衆衛生、予防医学  
山田 幸正 教授  
建築史（日本建築史・東洋建築史）  
吉川 徹 教授  
都市・建築空間解析、都市計画、都市解析  
芳村 學 教授  
建築構造、鉄筋コンクリート構造の耐震技術  
饗庭 伸 准教授  
都市計画、市民参加、NPO・NGO  
伊藤 史子 准教授  
住環境学、都市評価論  
高木 次郎 准教授  
構造設計、鋼構造、構造システム開発  
島海 基樹 准教授  
都市設計、都市計画、都市景観  
永田 明寛 准教授  
建築環境学、建築の熱湿環境と熱負荷  
山本 薫子 准教授  
都市社会学、エスニシティ、都市調査  
市古 太郎 助教  
都市計画学、空間情報科学、都市防災論  
一ノ瀬 雅之 助教  
建築環境・設備  
猪熊 純 助教  
建築設計  
門脇 耕三 助教  
建築講法、構法計画  
木下 央 助教  
工学、建築学、建築史、意匠  
黒川 直樹 助教  
建築史、意匠  
中村 孝也 助教  
建築構造・材料  
松沢 晃一 助教  
建築材料、コンクリート工学  
松本 真澄 助教  
住居学、建築経済  
見波 進 助教  
建築構造学、鋼構造  
山村 一繁 助教  
建築構造・材料

## 分子応用化学コース →p.086

内山 一美 教授  
分析化学、マイクロ化学分析、クロマトグラフィー  
梶井 克純 教授  
大気環境化学、光化学、分子分光学、オキシダント  
加藤 覚 教授  
輸送現象、抽出、吸着、計算機利用、相平衡  
金村 聖志 教授  
電池、燃料電池、電気化学、セラミックス材料化学、生体関連セラミックス  
川上 浩良 教授  
高分子化学、生体分子工学、機能性分離材料、生物無機化学  
久保 山治 教授  
有機合成化学、超分子化学、機能性色素  
春田 正毅 教授  
触媒化学、コロイド・界面化学  
益田 秀樹 教授  
電気化学、電気化学プロセスに基づく微細加工とその応用  
山口 素夫 教授  
有機合成化学、錯体化学、超分子化学  
吉田 博久 教授  
高分子固体物性、多成分系分子集合体の構造制御  
朝山 章一郎 准教授  
バイオマテリアル化学、医用高分子、生化学、生体分子工学  
梶原 浩一 准教授  
無機材料化学、光・電子機能セラミック・ガラス、深紫外光材料  
加藤 俊吾 准教授  
環境化学、大気化学、東アジア大気環境、海洋と大気の相互作用  
佐藤 潔 准教授  
複素環合成、分子認識化学、構造有機化学  
高木 慎介 准教授  
光化学、ナノ構造化学、機能性色素材料、ナノ層状化合物の化学  
武井 孝 准教授  
表面化学、セラミックス化学、環境材料  
中嶋 秀 准教授  
マイクロ化学分析、クロマトグラフィー、化学・バイオセンサ  
西尾 和之 准教授  
無機材料、デバイス  
山登 正文 准教授  
材料化学、構造・機能材料  
嶋田 哲也 助教  
物理化学  
田中 学 助教  
高分子化学、機能性高分子  
中嶋 吉弘 助教  
レーザー誘起蛍光法を用いた大気微量成分観測  
西敷 隆平 助教  
超分子化学、分子認識化学、ナノ材料化学  
乗富 秀富 助教  
バイオプロセス工学、生体解媒化学、ナノ材料  
増井 大 助教  
有機金属化学、有機合成化学、無機化学  
棟方 裕一 助教  
電気化学、燃料電池、リチウム電池、構造セラミックス材料  
柳下 崇 助教  
材料化学

## 自然・文化ツーリズムコース →p.088

東 秀紀 教授  
観光からみたまちづくり論、都市・建築文化論  
菊地 俊夫 教授  
人文地理学、自然ツーリズム学  
小崎 隆 教授  
エコツーリズム、自然と人間の共生、環境教育、土壌圏生態学  
清水 哲夫 教授  
観光計画学、交通工学  
本保 芳明 教授  
観光政策学  
川原 晋 准教授  
観光デザイン論、中心市街地再生論、まちづくり市民事業  
倉田 陽平 准教授  
地理情報科学、空間情報処理、観光情報システム  
沼田 真也 准教授  
生態学、熱帯生物学、自然ツーリズム  
有馬 貴之 助教  
観光地理学、観光行動論  
岡村 祐 助教  
都市デザイン・歴史的環境保全・まちづくり  
矢部 直人 助教  
都市地理学、観光解析、地理情報科学  
吉田 樹 助教  
都市・地域における公共交通政策、観光計画

# システムデザイン学部

Faculty of System Design

システムデザイン学科  
<http://www.sd.tmu.ac.jp/>

- 094 ヒューマンメカトロニクスシステムコース
- 096 情報通信システムコース
- 098 航空宇宙システム工学コース
- 100 経営システムデザインコース
- 102 インダストリアルアートコース



進化したシステムテクノロジーにより  
人と環境にやさしい高度な知的社会の構築を目指します。

システムデザインは、システムの設計、解析、制御などを行うシステム工学に、バイオや情報分野の最新科学技術を取り入れ、さらに人間の感性のような数理的な視点では捉えにくい要素までも含んだシステム工学の進化版であり、これまで以上に人間や環境・社会とのかかわりを意識してシステムを構築する横断型の学術分野です。高度な知的システムの代表であるロボットは生体工学や人間科学の成果を取り入れて進化し、着実に生物や人間に近づきつつあり、極めて高いシステム信頼性が要求される惑星探査の宇宙機も情報通信技術と宇宙航行技術の融合により遥か彼方まで宇宙航行が可能にまで発展しています。

システムデザイン学部には、このような科学技術の発展に呼応して、人と機械が絡んだ複雑多様な知的システムを創造する「ヒューマンメカトロニクスシステム」、21世紀の都市型情報社会の基盤を支え、知的社会に革新をもたらし続けている「情報通信システム」、先進性と高信頼性を併せ持ち常に未来に挑戦する「航空宇宙システム工学」、工学の視点から福祉・環境と経済性の調和した都市社会の実現を目指す「経営システムデザイン」、科学と芸術を融合させ創造性豊かなシステムデザインを行う「インダストリアルアート」の5つの特徴的なコースを設けています。次々と進化を遂げ複雑化する都市社会においては、科学・技術の急速な進歩や分野の広がり柔軟に対応できるようにしっかりとした基礎学力を身につけることが重要です。それはまた柔軟な思考と豊かな発想力のベースとなります。各コースでは、そのための教育プログラムを年次ごとに組み立てています。

システムデザイン学部長 浅井 雅人

## システムデザイン学科

- | ヒューマンメカトロニクスシステムコース
- | 情報通信システムコース
- | 航空宇宙システム工学コース
- | 経営システムデザインコース
- | インダストリアルアートコース

## 学部の特徴とポイント

本学部の最大の特徴は、都市社会に必要なシステムや次世代あるいは将来の実現を目指すさまざまなシステムを、数理的、システム工学的なアプローチはもちろんのこと、人間の感性を重視したデザイン工学的なアプローチからも総合的に教育研究するという点です。

5つの履修コースは、それぞれがアイデンティティを持って特徴的な専門教育を行っていますが、さまざまな要素技術が統合された知的システムや複合システムの設計・開発には、個々の知識だけでなく、関連した多くの分野の総合的な知識やノウハウ、さらに統合化技術が必要とされます。そのため、各コースの専門分野に限定されることなく、コース間の緩やかな連携による教育研究体制により、周辺分野の知識も含めた学際・横断的教育を受けることができる仕組みを用意しています。

## 人材育成の狙い

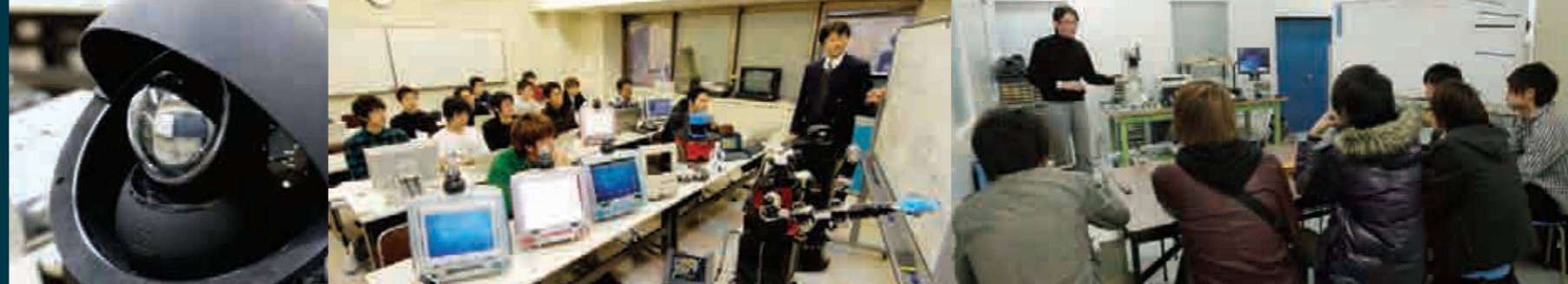
科学技術の世界では、多分野間の連携や融合化が進み、次々と新しい発見や最新テクノロジーを利用したシステムが生まれています。本学部では、それらに柔軟に対応できる、確かな知識に裏づけされた、応用性・創造性豊かな人材を育成します。

卒業後、システム開発やプロジェクトに関われば、さまざまな局面で異分野の技術者や開発研究者とのコミュニケーションが必要とされます。コース間の垣根が低い1学科構成のシステムデザイン学部の教育スタイルは、異分野間のコミュニケーションや協調性を学ぶのに適しています。また、本学部は、北米、ヨーロッパ、アジアの数多くの海外大学と研究交流協定を結んでおり、その交流ネットワークを利用した国際的な視点での人材育成を目指しています。

皆さんは、10年後、20年後、世界の諸都市で、高い知性と感性を持つ21世紀型のエンジニア、研究者あるいはクリエイターとして活躍されることが期待されます。

# ヒューマンメカトロニクスシステムコース

http://www.sd.tmu.ac.jp/sdfaculty/human\_mechatronics.html



## 人間社会と機械システムとの共生を図り、都市の快適・安全な環境を作り出す

こんな夢を実現する優れた人材を育成するのがこのコースの目標です。そのために、人間社会システムとの融和、地球環境との調和を図りながら「機械系」「電気・電子情報系」両方を複合した形で捉え、知的システム創成に関わる4つの基礎分野を横断的に学修します。

### ① [知的システム制御]

環境に配慮した複合型エネルギー／電気自動車などの環境システム制御技術、人間と高度な関係を築くロボティクス・システム創成を可能にする制御工学とメカトロニクス技術。

### ② [知的システムデザイン]

もの(製品)とこと(サービス)の統合設計を支援するサービス工学、循環型社会を実現するライフサイクル設計、人と機械の双方向意思伝達をつかさどるヒューマンインタフェース技術とロボット工学。

### ③ [生体システム工学]

人体の力学的な仕組みを学び、医療技術の革新に挑むバイオメカニクス、脳や体の機能と活動の計測・可視化を学ぶ生体計測工学、コンピュータの世界で人と機械を結ぶヴァーチャルリアリティ、人に優しいバリアフリーを考える福祉機器設計。

### ④ [機能デバイス]

人にやさしいメカトロニクスを実現するための電子・機械的な機能素子の開発。その基本原理から設計・製造・評価に至るまでの基礎とマイクロ・ナノテク応用。

また、大学院への進学を想定した一貫性のあるカリキュラムを組み、国際的に通用する人材を育成します。

## カリキュラムの特色

1・2年次は、南大沢キャンパスで工学基礎系、情報基礎系と実践英語を学び、専門科目を学ぶ上での基礎を身につけ、3・4年次には、日野キャンパスで専門科目を中心に履修します。「知的システム制御」「知的システムデザイン」「生体システム工学」「機能デバイス」の4つの分野を体系的に学修します。また物を見て、触り、観察して作り出

げるかと、レポートをまとめる力を身につけるために、各分野の実験科目が用意されています。4年次には、各教員の個別指導の下特別研究を行い、成果を卒業論文にまとめます。特別研究は大学院教育の一環として位置づけられ、大学院でさらに高度な研究を継続することができます。

## 求められる学生像

物理、数学などの素養があり、その上で機械・電子工学の学修に積極的に取り組み、新しい工学システムを創成する意欲のある学生を求めています。価値ある工学システムを構築するためには、人や環境に

目を向けて世界の潮流を捉えることも必要です。社会のグローバルな変化に目を向け、自分の将来の夢を描くことのできる感性豊かな学生を望んでいます。

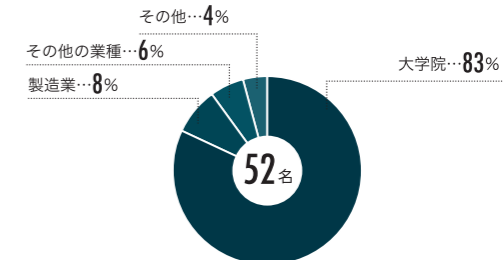
## 履修モデル

区分	1年	2年	3年	4年	
都市教養科目群	基礎セミナー、英語教育、情報教育、都市教養プログラム (p.022 参照)				
共通基礎教養科目群	共通教養科目、理工系共通基礎科目				
専門教育科目群	知的システム制御分野科目	過渡現象論 デジタル回路 システム制御工学	電気機械エネルギー変換システム工学 環境システム制御入門 システム解析論 動的システムモデリング 機器制御システム工学 アドバンス制御工学入門 ロボットセンシングとマニピュレーション	制御応用技術論 制御系設計	
	知的システムデザイン分野科目	機械運動学 ヒューマンインタフェース 離散工学入門	設計工学、ライフサイクル設計 情報計測工学、情報環境論 知能制御、知的エージェント工学	非線形現象と制御	
	生体システム工学分野科目	バイオメカニクス	基礎ロボット工学、福祉機器設計 生体計測工学I・II、応用ロボット工学 システム工学	先端ロボット工学	
	機能デバイス分野科目	メカトロニクス通論	電磁波解析 計測工学通論	ナノプロセス工学通論 マイクロプロセッシング 加工工学、CAE、マイクロ機能デバイス	量子物性論
	実験・特別研究(必修)		設計製図 ヒューマンメカトロニクスシステム基礎実験	ヒューマンメカトロニクスシステム応用実験	ヒューマンメカトロニクスシステム特別研究1・2
演習科目(選択)	機械工学演習	電子工学演習	プログラム演習 ヒューマンメカトロニクスシステムセミナー	ヒューマンメカトロニクスシステム工場見学1・2	
学部共通科目	科学技術英語第一・第二、産業と法規				

## 取得できる資格・免許

学士(工学)：卒業を要件として取得できます。

## 卒業後の進路 (2010年3月卒業生実績)



### 2009年3月、2010年3月卒業生実績

[就職先] トヨタ自動車、本田技研工業、スズキ、デンソー、ソニー、三菱電機、IHI、東京電力、ブリヂストン、凸版印刷、日立情報システムズ、アイシン精機、KDDI、シーメンス旭メディテック、ハイテックス、トヨタテクニカルディベロップメント、ジャル エクスプレス、みずほ情報総研、森精機製作所、江戸川区役所 など

[進学先] 首都大学東京大学院、東京工業大学大学院、慶應義塾大学大学院、航空大学校 など

## 在校生インタビュー

### さまざまな人に出会える環境を活かして人間の行動について深く理解したいです。

もともと機械だけでなく心理学などさまざまな分野に興味があり、将来は人と関わる仕事がしたいと思っていたので、人間の暮らしに直接役立つ知識を学べる本コースを進学先に選びました。まだ1年生なので都市教養プログラムなどを通して幅広い分野を学んでいるところですが、機械や測定器の基本的な使い方を学ぶ実験科目はとても興味深く取り組んでいます。人と触れあうロボットに興味があるので、今後は人間の身体や心理のメカニズムについて学んでいきたいと思っています。首都大学東京には多様な学部があり、さまざまな学生や先生方がいるので、その環境を活かして「人間の行動」について理解を深めていきたいですね。



ヒューマンメカトロニクスシステムコース1年  
(2010年10月取材)  
清水 祐貴

### 広く学び、そこから興味を深め自分の夢へ踏み出していきたいと思っています。

大学では必ずしも仕事に直結する勉強をするのではなく、4年間を通して自分の興味や将来の進路を見出していきたいと考え、人間やシステム、モノづくりに関する比較的広い分野を学ぶことができる本コースに進学しました。3年の今は実験の授業も増えて、とても充実した毎日です。実験はメカトロニクスからバイオ関連までさまざまなテーマがあり、これまで身につけた幅広い知識を活かしながら行っています。今まで学んできた中で、人間の生活をサポートするロボット技術に興味を持ち、今後はロボットに関する研究を深めたいと考えています。将来はどのような職業に就こうとも、大学での学びや、私なりの理系の視点を仕事に活かしていきたいです。



ヒューマンメカトロニクスシステムコース3年  
(2010年10月取材)  
野本 優希



ヒューマンメカトロニクスシステムコース  
新入生オリエンテーション



設計製図(実習)



ロボットセンシングとマニピュレーション(講義)



ヒューマンメカトロニクスシステムゼミナール

# 情報通信システムコース

http://www.ics.sd.tmu.ac.jp/



## 目指すのは、情報通信分野をリードする底力のある技術者の育成

インターネットやデジタル通信、情報セキュリティ、知能情報処理から高度な情報処理まで、現代社会の基盤技術である「情報」と「通信」を融合させ、その両者を集中的に学び、研究する。国公立大学では他に類をみないコースです。

技術の進歩が著しいこの分野において、常に新しい技術を生み出すことのできる「底力」のある技術者を育成するために、基礎を徹底重視、

幅広い学問領域をバランスよく学修しています。またその学問レベルは極めて高く、海外留学生が多いことから国際的に高い評価を受けています。さらに、民間からの教授も多く、インターンシップや共同研究などを通じて、大学だけではわからない実社会の「生」の刺激を体験できるチャンスも豊富。社会に出てから通用する、社会に必要とされる人材育成にも自信があります。

## カリキュラムの特色

本コースのカリキュラムは、各自の関心に応じて専門性を深めていけるように設計されています。低年次には、情報通信分野の共通の基礎を構成する科目群を通じて、基礎を徹底して学びます。高年次になると、情報通信、通信システム、計算機システム、ソフトウェア、知

能情報システムの各領域にわたるコース専門教育科目群が提供されます。それらをバランスよく履修することによって、情報通信システムに関する知識を全般的に修得することができます。

## 求められる学生像

急速な進歩を遂げる情報通信分野では、その進歩においていかれることを恐れては、何も始まりません。自らがリードしていくという力強い気概が必要です。そんなチャレンジ精神を持った人を歓迎します。また、基礎を徹底重視するという観点から、数学、物理の基礎力が求められます。そうした素養をベースに、情報処理や情報通信の

技術、それらの基盤となるシステム技術に対して幅広い興味をもった人の期待に対して、本コースは十分に応えることができます。

「技術を知り、活かし、創る人材」を目指して。それが、本コースのモットーです。

## 履修モデル

区分	1年	2年	3年	4年	
都市教養科目群	基礎ゼミナール、英語教育、情報教育、都市教養プログラム (p.022 参照)				
共通基礎教養科目群	共通教養科目、理工系共通基礎科目				
専門教育科目群	情報通信工学基礎科目	情報通信数学第一 プログラミング基礎第一 論理回路 情報通信特別講義	情報通信数学第二 プログラミング基礎第二 回路理論 データ構造とアルゴリズム 電磁気学		
	情報工学分科科目		コンピュータアーキテクチャ 論理設計 情報ネットワーク	VLSI 設計、情報理論 ソフトウェア工学、データベース 人工知能、確率統計工学 オブジェクト指向プログラミング オペレーティングシステム ヒューマン・コンピュータ・インタラクション	
	通信工学分科科目		通信工学 電磁波工学	信号解析、デジタル通信 デジタル信号処理 光電波伝送工学、情報代数と符号理論 メディア情報処理、応用通信工学 センシングシステム	
	情報通信応用分科科目			デジタル電子回路 コンピュータグラフィックス 計算論、Web マイニング 知的ネットワークシステム 知能情報処理 ネットワークコンピューティング 応用プログラミング、パターン認識 エンベデッドシステム 情報通信応用数学	(コンピュータグラフィックス) (計算論) (Webマイニング)
	情報通信システム演習科目		情報工学演習 回路理論演習	通信工学演習	
	実験科目 (必修)		情報通信基礎実験	情報通信応用実験 情報通信プロジェクト	
特別研究 (必修)				情報通信システム特別研究1-2	
学部共通科目	情報と職業	科学技術英語第一・第二		産業と法規	

## 取得できる資格・免許

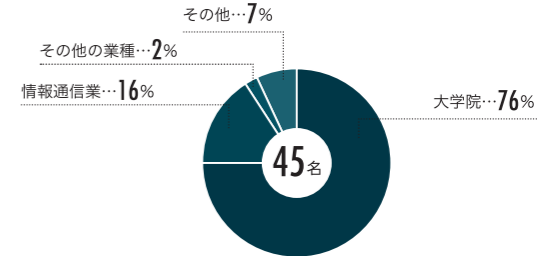
学士 (工学) : 卒業を要件として取得できます。

高等学校教諭一種免許状 (情報) : 定められた教職に関する科目と教科に関する科目の単位 (講義・演習・実習) の修得ならびに、卒業を要件として、教員免許状が取得できます。

第一級陸上特殊無線技士 : 所定の科目の単位の修得ならびに、卒業を要件として、取得できます。

第三級海上特殊無線技士 : 所定の科目の単位の修得ならびに、卒業を要件として、取得できます。

## 卒業後の進路 (2010年3月卒業生実績)



### 2009年3月、2010年3月卒業生実績

【就職先】 NTT東日本、光通信、アルプス技研、NECエレクトロニクス、NTTコムウェア、NTデータ アイ、キヤノン、バイオニア、日立製作所、三菱電機インフォメーションシステムズ、ソフトバンクテクノロジー、日立ソフトシステムデザイン、キューブシステム、エキサイト、マネージメントサービス、第一生命保険、日本総合研究所、野村総合研究所、東京都庁 など

【進学先】 首都大学東京大学院、産業技術大学院大学、東京大学大学院、東京工業大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学 など

## 在校生インタビュー

基本からしっかり学んで専門分野を深め、社会に役立つ機械関連の仕事を目指します。

人工知能や医療機器といった人に関わる機械に興味があり、このコースに進みました。興味深く感じた授業は「回路理論」。高校の物理の内容を復習しながら、専門的なデジタル回路の理論まで発展させていくため、違和感なく専門分野に学びが繋がりました。私は部活動を行っていて、健康福祉学部や理工学系などの友人と医療機械の話をすることもあります。将来は誰と誰が設計と製作、プログラミング担当は私と、話しが盛り上がることもあります。夢が膨らみ毎日の授業が楽しみです。現在は情報社会ということもあり、就職の幅が広いのもこのコースの魅力。進路は今後専門分野を深く学びながら、じっくり考えていきたいと思っています。



情報通信システムコース2年  
(2010年10月取材)  
福原 梓



情報通信システムコース3年  
(2010年10月取材)  
橋本 英介

体系的に学んだ理論を工学的に応用。通信工学がますます面白くなってきました。

テクノロジーとして一番身近にあったコンピュータに関心を持ち、情報通信システムコースに進みました。通信工学はコンピュータと違って、入学前に具体的なイメージを掴みにくかったのですが、理論を学ぶうちに興味をもつようになりました。例えば電磁波は目に見えないものですが、数式で表わすことができ、その振る舞いを理解して工学的に応用することができます。ここが電磁気学や電磁波工学の面白い部分です。実験の授業では、1、2年次で体系的に学んだ内容を実際に現象として観測。今は光ファイバーをテーマに実験しています。今後は大学院へ進学して電磁波などの研究を深め、将来は科学技術の発展に寄与するのが目標です。



■ 情報通信プロジェクト



■ 情報通信基礎実験



■ レーザー実験室



■ 画像と音声で人と対話するロボット

# 航空宇宙システム工学コース

http://www.aerospace.sd.tmu.ac.jp/



## 地球を飛び出せ。21世紀の人類に欠かせない航空宇宙技術を学ぼう

航空機やロケットの技術に求められる高い信頼性や、宇宙空間という特殊環境での利用を想定した技術や機器の開発など、航空宇宙工学はさまざまな工学系学問の最先端領域の知識や技術を必要とする「総合工学」です。そのため、本コースでは数学や物理学、化学などの専門基礎をベースに、空気力学、推進工学、材料構造力学、飛行力学、制御工学を中心とした航空宇宙工学に必須の科目を学びます。また、これらに宇宙情報通信や宇宙環境利用などの応用科目を加え、幅広い分野で活躍できる人材育成のための教育プログラムを用意しています。本コースの強みは、充実した実験・実習施設です。大型の低速風洞

をはじめ、遷・超音速風洞、ジェットエンジン、小型ロケットエンジン、真空チャンバー、模擬無重力実験装置、高温疲労試験装置、騒音・振動試験用エングローピングなどの実験・計測装置が設置され、実際の装置を使っての実践教育がエンジニアとしての能力やセンス、さらには応用力を身につけるのに役立っています。

また、本コースでは宇宙航空研究開発機構や情報通信研究機構と教育研究面での連携を進め、学生の派遣や航空宇宙工学の第一線で活躍する同研究所の研究者による講義など、積極的な交流を通じてさらなる実践的レベルの向上を図っています。

### カリキュラムの特色

本コースのカリキュラムは、空気力学と熱・推進工学分野、航空機や宇宙機の力学と制御および宇宙利用分野、そして、航空機やロケットの材料・構造力学分野の3つに大きく分けられ、1年次から3年次の間に、講義・演習・実験をバランス良く修得できるようになってい

ます。4年次になると研究室に配属され、教員1名当たり4～5名という少人数指導体制のもとで特別研究が始まります。本コースではこれらの教育を通じて、世界に通用する技術者を育成します。

### 求められる学生像

本コースを学ぶにあたっては、先進的な航空宇宙工学を学ぶのに十分な数学や物理、そして英語などの基礎学力をもっていることが求められます。その上で、航空機やロケットなどの航空宇宙輸送システムならびに宇宙の開発利用に興味がある人、また航空宇宙システムについて

新技術の開発に挑戦してみたいという人を求めています。さらに本コースでは、鳥人間コンテスト、学生飛行ロボットコンテストや無重力実験コンテストへの出場など、学生自身による自主的な活動も積極的に支援していますので、そうした活動に興味がある人も大歓迎です。

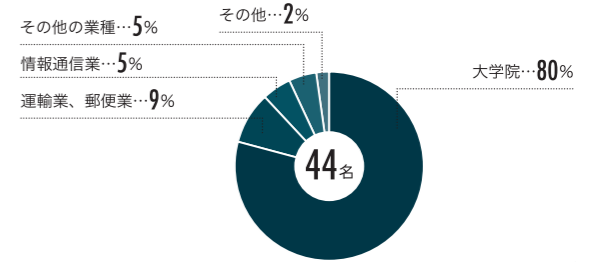
### 履修モデル

区分	1年	2年	3年	4年
都市教養科目群	基礎ゼミナール、英語教育、情報教育、都市教養プログラム (p.022 参照)			
共通基礎教養科目群	共通教養科目、理工系共通基礎科目			
専門教育科目群	航空宇宙基礎科目	航空宇宙工学概論	流体力学1・2 熱力学1・2 基礎振動工学、基礎制御工学1 設計製図、応用数学力学演習	航空宇宙工学実験1・2 基礎制御工学2 数値解析演習 飛行機設計論
	選択必修科目		空気力学1・2、熱輸送工学 数値流体力学1・2、推進工学1・2 燃焼工学、宇宙推進システム工学 熱力学演習	数値流体力学演習
	制御・宇宙利用分野科目		宇宙飛行力学、飛行力学 宇宙電波工学 航空宇宙制御工学1・2 航空宇宙情報システム工学	宇宙プロジェクト工学 宇宙機システム工学演習
	材料・構造分野科目		材料強度学、航空宇宙材料	航空宇宙構造力学2 材料構造力学演習
	特別研究(必修)			航空宇宙システム工学 特別研究1・2
学部共通科目			科学技術英語第一・第二 産業と法規	

### 取得できる資格・免許

学士(工学)：卒業を要件として取得できます。

### 卒業後の進路 (2010年3月卒業生実績)



2009年3月、2010年3月卒業生実績  
 [就職先] 全日本空輸(ANA)、日本航空、JAL航空機整備東京、東京メトロ、本田技研工業、スズキ、日本アイ・ピー・エム、三井造船、リコー、東洋ビジネスエンジニアリング、アビームコンサルティング、SMC、商船三井、日本放送協会(NHK) など

[進学先] 首都大学東京大学院、東京大学大学院、千葉大学大学院 など

### 在校生インタビュー

スペースデブリ回収衛星に関わる仕事を目指し課外活動からも知識や経験を増やしています。

高校の時にスペースデブリ(宇宙ゴミ)の回収衛星に興味をもち、本コースにはその分野を研究する教授がいらっしゃることを知って進学しました。「航空宇宙工学概論」の授業では1年次から専門につながる内容を学ぶことができ、早速スペースデブリの話も聞くことができました。授業以外でも日本宇宙フォーラム主催の衛星設計コンテストに首都大学東京のメンバーとして参加。所属するロケット打ち上げサークルでは能代宇宙イベントに出場するなど、自主的な活動の中からも実践的な知識を増やしています。将来は研究を積んで衛星設計の仕事に携わるか、またはスペースデブリの回収を一つのビジネスとして展開することも考えています。



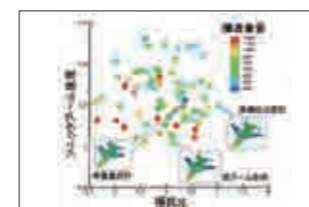
航空宇宙システム工学コース1年  
(2010年10月取材)  
城戸 彩乃

広い教養と高い専門性を身につけ飛行機への夢が現実になりました。

物心ついた時から飛行機が大好きで、大学では航空を専攻しよう決めていました。入学してから授業の中で空気力学や流体力学を学ぶうち、機体が浮く理論や形状などへの理解が深まり、飛行機への興味がますます高まりました。ゼミでは超音速機を研究。より効率的に飛行できる形状を追求して設計を行っています。首都大学東京は専攻分野の知識を養うほか、総合的な教養が身につく点も大きな魅力です。他の専攻の学生や先生と接する機会もあり、さまざまな考えを理解する力も得られたと思います。卒業後は国内の航空会社で技術職として働くことが決まりました。これから技術的かつ人間の力をさらに磨いて、会社に貢献していきたいです。



航空宇宙システム工学コース4年  
(2010年10月取材)  
森 俊介



■ 超音速航空機の多分野融合設計



■ 航空機を用いた微小重力環境実験



■ 低周波大気圧プラズマ実験



■ 衛星設計コンテストへの参加

# 経営システムデザインコース

http://www.sd.tmu.ac.jp/~mse/



## 人間中心のものづくりシステムに、科学的、総合的な視点からアプローチ

働きやすい環境を整えたり、環境を大切にしたい工場やシステムを考えたり、経営に関するシステムを理論と実践の両面から学ぶのが経営システムデザインコースです。

経営工学をベースに柱となる3つの分野

[ マネジメント工学分野 ]

開発・製造から物流まで統合的に捉えるシステム

[ 人間工学分野 ]

人にやさしく使いやすいシステムなど

[ 社会システム工学分野 ]

情報社会の構造や人と情報社会の結びつきに配慮したシステム

3つの分野を併せて学ぶことで、総合的かつ多角的観点から経営システムのデザインを考えることのできる能力を育成していきます。

科学的に経営を見つめたい！理系の視線で社会や福祉に関わってみよう！そんな興味がある人は、ぜひ、一緒に学びましょう。また、エンジニア、技術系のプロとして活躍するために、多くの学生が大学院への進学を目指しています。

## カリキュラムの特色

1・2年次は南大沢キャンパスで、専門分野の基礎的な部分を学ぶとともに、都市教養科目を広く取ることによって、工学に限定されない幅広い知識の修得を目指します。

3年次からは日野キャンパスとなり、本コースの柱となる3分野からの選択必修で、本格的な専門科目を学ぶこととなります。3年次の

終わりには、4年次で行う卒業研究の配属研究室を決めます。

4年次には、各研究室で、教員一人当たり平均4～5名の少人数制での卒業研究が始まります。また、資料を読み込む力、プレゼンテーション技術、コミュニケーション能力なども、担当教員から指導を受けます。

## 求められる学生像

理系分野が得意で論理的思考ができ、人間・経営・社会・ものづくりに興味のある人。人体のしくみや福祉に関心があって人間中心のものづくりを科学的にアプローチしたい人。人間や都市社会のシステムに強い興味をもって、人々の役に立ちたいという意欲のある人。この

ような人材が、これからの社会では求められます。21世紀の産業活動を支えていく、とてもやりがいのある学問です。このような学問に対する好奇心にあふれ、新しい課題に積極的に取り組む意欲のある学生を望んでいます。

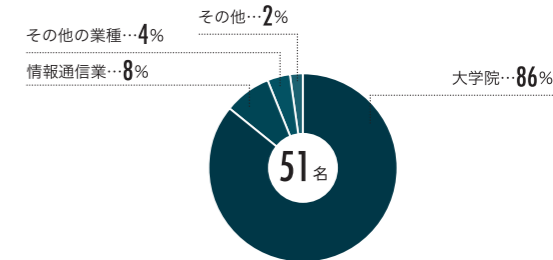
## 履修モデル

区分	1年	2年	3年	4年
都市教養科目群	基礎ゼミナール、英語教育、情報教育、都市教養プログラム (p.022 参照)			
共通基礎教養科目群	共通教養科目、理工系共通基礎科目			
専門教育科目群	経営システムデザイン基礎科目	経営システムデザイン概論 人間工学概論	マネジメント工学概論 社会システム工学概論 経営システムデザインプログラミング実習I・II 経営システム基礎実験 統計工学	
	マネジメント工学分野科目		生産システムマネジメント論 ロジスティクスシステム論 システム工学、システム制御 システム信頼性、品質工学 計画工学、生産システム設計論 ファイナンス工学、工場計画	生産システムマネジメント演習 システム制御演習 品質工学演習 生産システム設計演習 マーケティング・リサーチ リスクマネジメント
	人間工学分野科目		応用人間工学、産業/バイオメカニクス 産業人間工学、生産福祉工学 マン・マシンシステム設計論I・II 産業心理学、認知工学 セーフティマネジメント論	応用人間工学演習 産業人間工学演習 マン・マシンシステム設計演習 セーフティマネジメント論演習 人類学
	社会システム工学分野科目		知的戦略論、通信トラフィック論 経営情報システム論 社会システムデザイン論 社会情報ネットワーク論 ネットワークシステム論 社会システムシミュレーション論 最先端社会システムデザインI・II	社会情報ネットワーク論演習 社会システムデザイン論演習 社会システムシミュレーション論演習 最先端社会システムデザイン演習
	経営システム実験		経営システム実験I～III	
	特別研究(必修)			経営システムデザイン特別研究1・2
学部共通科目			科学技術英語第一・第二 産業と法規	

## 取得できる資格・免許

学士(工学)：卒業を要件として取得できます。

## 卒業後の進路 (2010年3月卒業生実績)



### 2009年3月、2010年3月卒業生実績

[ 就職先 ] アクセンチュア、NECネクスソリューションズ、NTTコムウェア、NTTデータ、ソフトバンク、オービック、日立情報制御ソリューションズ、岡村製作所、オリンパス、住商情報システム、本田技研工業、ヤマハ発動機、セブン-イレブン・ジャパン、日本ユニシス、みずほフィナンシャルグループ、野村證券、三菱UFJ信託銀行、森永乳業、プロシップ、東京都庁 など

[ 進学先 ] 首都大学東京大学院、東京大学大学院、早稲田大学大学院、慶應義塾大学大学院 など

## 在校生インタビュー

モノづくりを経営、人間工学、情報という幅広い視点から捉えることができます。

人間視点・利用者視点に立った人間工学やユニバーサルデザインに興味をもっていたため本コースに入学しました。現在は3年次以降の学びの基礎となる経営、人間工学、情報という各分野の科目を学んでいますが、単にモノづくりをするだけでなく、製品・商品をどうやって売るか、どうやって情報を流すかを考えることも重要だと分かってきました。また、1・2年次に専門外の科目を選択してきたことも視野を広げる良い機会になりました。今後は人間工学の知識・技術を更に深く学び、将来はトイレやお風呂、キッチンなどを対象に、できるだけ多くの人が使えやすいと感じる商品を開発したいと思っています。



経営システムデザインコース2年  
(2010年10月取材)

西島 麗

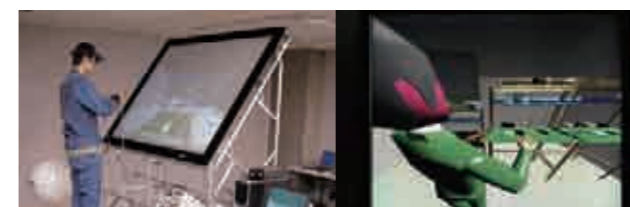
充実の施設環境のもとで人間工学を研究。ヒトを考慮したモノづくりに活かしていきます。

今、研究しているのは自動車の運転をシミュレーションするドライビングシミュレータの機械を用いた視野計測です。従来の計測は頭部を固定していましたが、より実際に近い状態を想定するため、新たに頭部運動を含めた方法で視野計測を行っています。ハンドル操作、走行軌跡などがデータ化され、最終的にヒトが使えやすいものづくり、安全性の高い製品の研究開発へと繋がっていきます。ゼミでは自動車のほか、3D映像の酔いや脳波の計測を研究している学生もいます。充実した施設も魅力です。もともと本コースへ進学したのは人間工学に興味があったから。将来は大学院へ進み、さらに人間工学の研究を深めていきたいです。



経営システムデザインコース4年  
(2010年10月取材)

古木 翔



人工現実感を用いた生産システム設計支援装置



眼球運動計測を用いたWebの設計評価



遠隔ビデオ通信を用いた通信ネットワークの品質評価実験

# インダストリアルアートコース

http://industrial-art.sd.tmu.ac.jp/



## エンジニアリングとアートの融合がさらなるイノベーションの源泉

21世紀はデザインの時代です。首都東京の巨大システム、そのイノベーションをデザインのカで加速しよう。インダストリアルアートコースは、さまざまな産業・活動を芸術的な視点から再編集し、新しい文化的な創造活動をプロデュースしていく人材の育成を目指して、2006年度にスタートしました。世界有数の情報発信地である東京を学びの対象に、エンジニアリングをベースにデザイン・アートコースとして感性重視の実践的カリキュラムで、次世代のクリエイター、プロデューサーを育てていきます。本コースは学生の学びの方向を2つのコア(専門分野)に分けています。「プロダクトデザインコア」では家電・トランスポート・空間・

家具などにいたる多様な工業製品や人間工学のデザインを学びます。「メディアアートコア」では、デジタル技術をベースに映像、Web、ソフトウェア、インタラクティブアートからグラフィックデザインにいたるメディアデザインとコンテンツ作りを学びます。また、デザイン資源を生活や社会・産業等に活かすためのリサーチ・企画・プロデュース・編集能力等も学びます。ワークショップなどの体験的なプログラムが充実しており、ひらめきを大切に、感じる心や豊かな感性を育む教育を実現していきます。

## カリキュラムの特色

専門科目は「基礎総合ワークショップ」と「コア科目」の2つに分かれています。「基礎総合ワークショップ」では、感性を磨くことを主眼に、デザイン全般に不可欠な技術と知識を基礎から実践かつ体験的に学んでいきます。「コア科目」には、プロダクトデザインとメディアアートの2つの

専門分野があり、志望のフィールドに合わせて演習科目等を継続的に選択履修し専門性を高めていきます。4年次には、12のスタジオ(専門領域)に分かれ、デザインが拓く新たな可能性を特別研究としてまとめることになります。

## 求められる学生像

東京を取り巻くさまざまな産業・活動をデザイン視点から再編集し、新しい価値を提案できる感性豊かな人材が求められています。デザインへの関心はもちろん、のびのびとした心で大胆な発想ができ、また緻密な作

業も粘り強く行える人。そして何より、自分の将来と社会の未来に対し「夢と希望」のある学生を求めています。

## 履修モデル

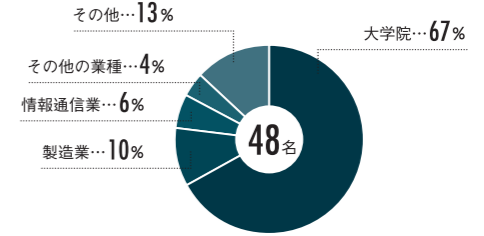
区分	1年	2年	3年	4年	
都市教養科目群	基礎ゼミナール、英語教育、情報教育、都市教養プログラム (p.022参照)				
共通基礎教養科目群	共通教養科目、理工系共通基礎科目				
専門教育科目群	基礎総合ワークショップ	芸術と社会倫理 ドローイングA 基礎造形A・B・C 2次元コンピュータグラフィックス アニメーション基礎 デザイン史B 色彩学概論 エディティング基礎	ドローイングB デザイン史A		
	プロダクトデザインコア		トランスポートデザイン基礎 イクイップメントデザイン基礎 デザイン材料論 リビングデザイン基礎 スペースデザイン基礎 人間工学基礎	トランスポートデザイン演習A・B トランスポートデザイン実習A・B イクイップメントデザイン演習A・B イクイップメントデザイン実習A・B リビングデザイン演習A・B リビングデザイン実習A・B スペースデザイン演習A・B スペースデザイン実習A・B 人間工学演習A・B 人間工学実習A・B	
	メディアアートコア	博物館学概論B	電子工作 Web基礎 美術館資料論 グラフィックデザイン基礎 プログラミング基礎 映像基礎 美術館実習	グラフィックデザイン演習A・B グラフィックデザイン実習A・B ゲームプログラミング演習A・B ゲームプログラミング実習A・B インタラクティブアート演習A・B インタラクティブアート実習A・B ネットワーク演習A・B ネットワーク実習A・B 映像演習A・B 映像実習A・B 芸術学特論II エディティング論 エディティング演習A・B アートプロジェクト演習C・D アートプロジェクト実習C・D	芸術学特論I アートプロジェクト演習A・B アートプロジェクト実習A・B
	特別研究(必修)				インダストリアルアート特別研究1・2
	学部共通科目			インターシッパ 産業と法規 科学技術英語第一・第二	

## 取得できる資格・免許

学士(芸術工学):卒業を要件として取得できます。

学芸員:定められた科目の単位の修得ならびに卒業を要件として学芸員資格が取得できます。

## 卒業後の進路 (2010年3月卒業生実績)



※小数点以下を四捨五入しています。

### 2010年3月卒業生実績

[就職先] コクヨ、イトーキ、アシックス、KDDIエボルバ、スプラシア、持田ヘルスケア、毎日コミュニケーションズ、丹青社、寿精版印刷、泉放送制作 など

[進学先] 首都大学東京大学院、東京学芸大学大学院、多摩美術大学大学院 など

## 在校生インタビュー

モノづくりやデザインが大好きな仲間と刺激し合いながら実力を磨いています。

さまざまなデザイン分野を学ぶことができるので、首都大学東京を進学先を選びました。しかし、1・2年で各分野の魅力に触れ、現在も何を専門に、どこを伸ばしていくかを迷っています。授業の大半はモノづくりで、課題をこなしていくのは大変です。デッサンから始まり、カーデザインや、段ボールで椅子を作ったり、実際の建築をもとにスペースをデザインしたりと、多くの学びを体験できます。このデザインが好きならばという環境の中で生まれたアイデア・表現力を、しっかり吸収しようと心がけています。今後はさらに空間把握力やスケッチ力を磨き、グラフィックとプロダクトを融合させたデザインを考えていきたいです。



インダストリアルアートコース2年  
(2010年10月取材)

櫻井 駿介



インダストリアルアートコース4年  
(2010年10月取材)

門村 亜珠沙



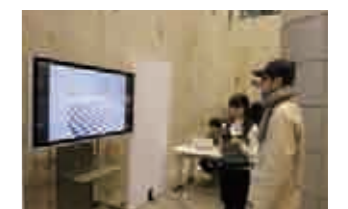
■ インタラクティブな触視覚ディスプレイ  
[Magnetosphere]



■ 2年次「スペースデザイン基礎」  
課題作品の講評



■ 「ナガサキ・アーカイブ」



■ 視線計測を用いた空間デザイン評価

# システムデザイン学部 教員一覧

## 教員の専門分野・研究分野の紹介

### ヒューマンメカトロニクスシステムコース →p.094

青村 茂 教授  
バイオメカニクスと身体運動、福祉工学、ロボット作業の自動化

池井 寧 教授  
五感情報学、バーチャルリアリティ、認知工学、インタフェース

児島 見 教授  
制御工学、ロボットの制御、予測制御法などの開発とその応用

下村 芳樹 教授  
サービス工学に基づくサービスCADの開発。環境調和型設計

関原 謙介 教授  
脳活動の計測と可視化、特に脳磁界から脳活動を計測画像化

藤江 裕道 教授  
臨床バイオメカニクス、ロボティクスを応用した生体機能解析

武藤 信義 教授  
電気自動車などの環境対策車の知的ピークル制御、太陽光、風力

森 泰親 教授  
ディジタル制御、むだ時間制御、スライディングモード制御

諸貫 信行 教授  
機能表面とデバイス、自己組織ナノプロセス、マイクロメカニクス

楊 明 教授  
MEMSの製造と評価、MEMSを利用した生化学分析

金子 新 准教授  
自己整列マイクロ/ナノ粒子による構造作製

久保田 直行 准教授  
パートナーロボット、知的センサネットワーク、認知システムと行動学習

菅原 宏治 准教授  
高性能と環境調和を両立するナノ構造フォトニクス材料の探索

武居 直行 准教授  
人間支援ロボティクス、触覚テクノロジー、柔軟メカトロニクス

和田 一義 准教授  
医療福祉ロボット、空間型ロボットに関する研究

石橋 良太 助教  
システム制御分野、ロボティクス・ハプティクスに関連した研究

坂口 堯 助教  
プラズマ流体における非線形波動現象の研究

佐久間 秀夫 助教  
光応用計測

館山 武史 助教  
機械学習、知能ロボティクス

千葉 龍介 助教  
社会・生体・ロボットシステム工学

中橋 浩康 助教  
血管・神経のバイオメカニクス

### 情報通信システムコース →p.096

阿保 真 教授  
計測・情報伝送（大気環境計測、情報通信の計測への応用）

岩崎 一彦 教授  
高信頼コンピュータ（ディペンダブルネットワーク）

貴家 仁志 教授  
メディア信号処理（ディジタル信号処理、画像情報圧縮）

田川 憲男 教授  
画像情報処理（画像認識、統計的推定、超音波信号処理）

長澤 親生 教授  
レーザ・光情報処理（レーザセンシングによる環境計測）

西谷 隆夫 教授  
モバイルメディア処理アーキテクチャ（携帯メディアプロセッサ）

福本 聡 教授  
耐故障計算技術（並列分散システム、自己回復可能なコンピュータ）

山口 亨 教授  
知能情報処理（ネットワーク型知能、ネットワークロボティクス）

大久保 寛 准教授  
波動情報工学（信号解析、数値シミュレーション、電磁界計測）

片山 薫 准教授  
データ工学（データマイニング、問い合わせ最適化、情報検索）

高間 康史 准教授  
知能情報処理（Web インテリジェンス、情報検索・可視化）

西川 清史 准教授  
ディジタル通信（無線通信方式、メディアデータの効率的伝送）

三浦 幸也 准教授  
VLSIシステム工学（VLSIのテスト方法、高品質VLSIの設計）

新井 雅之 助教  
計算機システム・ネットワーク

柴田 泰邦 助教  
計測工学、レーザ工学、光電波工学

下川原 英理 助教  
知能情報処理に関する研究分野

藤田 八郎 助教  
符号理論、信号処理に関する研究

藤吉 正明 助教  
メディア情報セキュリティ、画像処理

### 航空宇宙システム工学コース →p.098

浅井 雅人 教授  
流れの安定性と層流から乱流への遷移、乱流及び剥離流の制御

小島 広久 教授  
フリーフライング宇宙ロボットの力学、制御、知能化

竹ヶ原 春貴 教授  
プラズマを利用した宇宙推進機及び宇宙でのプラズマの工学的応用

田中 信雄 教授  
宇宙構造物の有する軽量で柔軟な静粛化制御技術の開発研究

福地 一 教授  
衛星通信・放送、マイクロ波リモートセンシングに関する研究

湯浅 三郎 教授  
ハイブリッドロケットエンジン開発、GTエンジン内燃焼機構解明

渡辺 直行 教授  
複合材料に関する強度と損傷進展、構造流体連成問題

金崎 雅博 准教授  
流体力学、空力最適設計法についての理論・数値シミュレーション

北岡 幸一 准教授  
航空宇宙用軽量金属材料の材料設計、力学的特性の評価

佐原 宏典 准教授  
革新的宇宙システムの研究開発、その利用法開拓による未来の宇宙の創造

白鳥 敏正 准教授  
超音速内部流と衝撃波挙動、リフトファンシステムの空力的特性

田川 俊夫 准教授  
磁場下における気液二相流、材料プロセスにおける電磁場制御

青柳 潤一郎 助教  
宇宙推進システム工学

稲澤 歩 助教  
流れの不安定性と乱流遷移及び空力音に関する研究

岩本 宏之 助教  
分布定数系構造物の振動・騒音制御

小澤 俊平 助教  
微小重力環境を利用した高温融体の熱物性計測及び新材料開発

櫻井 毅司 助教  
超小型ガスタービンやハイブリッドロケットエンジンの燃焼に関する研究

渡部 武夫 助教  
宇宙テザーシステム等、柔軟宇宙構造物の力学と制御

### 経営システムデザインコース →p.100

會田 雅樹 教授  
通信ネットワークの性能評価技術、品質計測技術、社会構造の分析

朝香 卓也 教授  
環境情報システム技術・環境ネットワークシステム技術の研究

飯村 清明 教授  
OR問題における数学的手法、整数論

梶原 康博 教授  
生産システム設計、生産管理、作業の自動化

川上 満幸 教授  
人に優しい環境と福祉をコンセプトにした産業人間工学の研究

瀬尾 明彦 教授  
作業による身体負担の人間工学的な計測・評価手法の開発

松井 岳巳 教授  
人間工学、安全工学、安全と医療に関するシステムデザインの研究

山本 久志 教授  
信頼性工学、データマイニング、オペレーションズリサーチ

開沼 泰隆 准教授  
サプライチェーンマネジメント、マーケティング・リサーチ

澁谷 正弘 准教授  
企業情報の知識化に関わるIT活用技術

西内 信之 准教授  
マンマシンシステム、ヒューマンインタフェース、画像処理

増田 士朗 准教授  
システム制御工学、経営工学における動的システムデザイン

山中 仁寛 准教授  
認知行動モデル、ヒューマンファクターを考慮した事故防止の研究

作元 雄輔 助教  
大規模な通信ネットワークの解析、シミュレーションの研究

滝 聖子 助教  
生産システムの設計・管理、組立・検査作業の自動化

茅原 崇徳 助教  
感覚や感性に依存する品質の定量化と製品設計の研究

長塚 豪己 助教  
統計学、品質管理、信頼性工学

### インダストリアルアートコース →p.102

稲垣 博 教授  
スペースデザイン、ディスプレイデザイン

笠原 信一 教授  
CAD、コンピュータグラフィックス、ソフトウェアデザイン、IT

中山 久美子 教授  
メディアアート、インタラクティブアート、バーチャルリアリティ

工藤 強勝 教授  
グラフィックデザイン、ブック・エディトリアルデザイン、タイポグラフィ

長田 謙一 教授  
芸術学、デザイン史、現代アート&デザイン社会関係論、アート企画

山下 敏男 教授  
トランスポートーションデザイン

笠松 慶子 准教授  
人間工学、ヒューマンインタフェース

金石 振 准教授  
製品デザイン企画、融合デザインイノベーション

楠見 清 准教授  
編集論、出版プロデュース、メディア文化史、芸術評論

今岡 俊博 准教授  
映像メディアデザイン

藤原 敬介 准教授  
リビングデザイン、家具デザイン

渡邊 英徳 准教授  
Webアート、ネットワークメディアアート

相野谷 威雄 助教  
インダストリアルデザイン

安藤 大地 助教  
メディアアート

土屋 真 助教  
空間デザイン

西崎 実徳 助教  
日常的行为とグラフィックデザイン

馬場 哲晃 助教  
メディアアート、インタラクティブデザイン

山口 祥平 助教  
アート&デザイン社会システム

# 健康福祉学部

Faculty of Health Sciences

<http://www.hs.tmu.ac.jp/>

108 看護学科

110 理学療法学科

112 作業療法学科

114 放射線学科